

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

小春日和のホームのある村の小道を2キロばかり、利用者3人と手を繋いで朝の散歩。童謡を口ずさむと唱和してこられる60歳代の婦人。道の端ばかりを歩く人。皆の後ろを道のゴミを拾いながら付いてくる最長老の婦人。この3人は外出が生きがいのよう。夫々が今を生き生きと過ごされている姿がここにはある。各人がこのホームにたどり着くまでの症状は、家族が耐えがたくなった行動障害や精神病院での抗精神薬剤による無気力・斜傾姿勢などの病状を抱えた人たちばかり。入所時のビデオと現在を比べると、大きく改善している状態が目瞭然である。認知症の中でも最も心理・行動症状の激しく出るピック病・前頭葉型認知症に正面から向き合っているこのホームの取り組みは、先般NHKの「福祉ネットワーク」でも紹介された。認知症ケアの最前線がここにはあるとの思いがよぎる。

訪問するとすぐ出されたミルクティーは、カップまで暖められた絶品もの。思わず「こんな美味しい紅茶は久しぶり・・・!」と呟いた。昼食を当日は、30歳代の男性職員が調理担当として中心になって準備していたが、このネバネバ丼がまた誠に美味しい出来映えで、利用者も食べ残しがない。「食事は精神の安定剤」と言う管理者の言葉に共感を覚えた。食後の団楽で、利用者達と「さて夕食は何にしましょうか・・・?」と話しかける会話は日常の大切な風景。「久しぶりにすぎ焼き・・・」。それが決まると食材の買物に同行する人、午睡する人、夫々の過ごし方にゆったりと寄り添っている穏やかな時間。現在の難題に業を抜く事に徹底し、人間のケアする力に賭けるチャレンジが管理者・職員夫々の個性とチーム力を振り所に5年の実績を確かに積み上げている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

このケアの実践の普遍化は極めて大切な課題。

こうした困難な病状に対する介護体制として、職員配置を増やす等の制度面の改正の必要性を強く感じた。

この実践をモデルに、ピック病・前頭葉認知症などのケアセンターのような公共機関を各地に設置して欲しいものである。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関。入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

利用者個々人の症状や性格等を職員がよく把握して、その人にふさわしい生活の営みを支援するように努めている。戸外活動を望む人には散歩や買物活動を日常化して取り組み、寂しがり屋には寄り添っての声かけが自然とされている。食事、排泄、入浴などの介助も、単にスケジュール処理に陥らず、普段の生活のリズムに沿ったの営みといったケア振りである。利用者が出来る事は一緒に、出来ない事は意欲を引き出す声かけを留意している。

この5年の取り組みは、管理者・職員が一体となって認知症の病気や心理と言った専門性を磨くとともに、粘り強く試練を乗り越えてきた事が想像される。職員の姿勢にはそうした実践を経て、落ち着いた顔つきに腰の据わった自信のようなものが感じられる。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

法人全体の方針として認知症ケアの新しい地平を切り開いていこうとする姿勢がある。このホームもその一環として、貴重な実績を積み重ねているといえよう。

その運営に当たって、管理者・職員のチームプレーのハーモニーがよいことがまず指摘されよう。難しい対応が日常的であるにもかかわらず、職員の柔和で落ち着いた対応振りは、その専門性に加えて互いを信じあっている裏づけがあるからだろう。そして、不安の塊のような利用者の感情を受け止める人間性の豊かさ、認知症ケアにおける大事なファクターであると感じさせる。

言葉が十分言えなくても「散歩してようか・・・」「今晚のご飯は何にしようか・・・」「買物に行こうか・・・」等と常に語りかけ、業務としての仕事というより普通の家庭の生活のような掛け合い空気が流れている。そして、食事や清拭・清掃・整容などを含めての日頃の生活文化の持ち方の大切さを感じさせてくれる。

事業所名 グループホーム ローゴム

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験14年
評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か

家庭での介護のみならず、一般の介護施設や病院でも対応に苦慮している行動障害が顕在化しているピック病 前頭葉型認知症に対して、このグループホームでは正面からの取り組みを目指している。とすれば抗精神薬に依存しがちな処遇を止め、そうした処置を受けた利用者から業を抜く実践から出発する原点がここにはある。そして、徹底した人間として向き合っている寄り添い、関わるケアを通じて、身体能力の回復をはかり、落ち着きある生活を取り戻す事を目指しているようだ。

法人トップの基本理念とこのホーム設立の実験的趣意を受け、管理者の毅然とした決意や介護・看護理念や技術、職員の夫々の個性も活かされ、よくチームとして纏まったケア姿勢が確立して、この課題に立ち向かっている。5年の修羅を踏み越えてきた職員夫々に、確信のような気風を感じさせられた。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

スウェーデン製の木造住宅は、木の暖かみを醸し出しているが、それでいてしっかりとした構造体となっている。機密性も高く、冬でも保温性が高いようだ。オープン前のホームで個展を開いた患者の絵画が寄贈され、玄関・廊下・居間にと掲げられて、さながらギャラリーのような趣となっている。それが、やや高い西欧風な部屋空間に調和をもたらしている。とすれば重症者にとつての治療病棟のような居住空間が更に病状を進めかねないと思われるが、ここでは生活空間としてのイメージがしっかりと作られている。しっかりとしたテーブル、椅子が居間には配置されている。居室には夫々の利用者の状態に見合った居室作りの味付けが感じられる。かつての利用者の家族が作った飾り物も記念碑のように居間の壁に飾られていて、家族の居場所にもなっている事を思わせる。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		